

平成24年度 教育の質向上支援プログラム(EEP)実績報告書

部局名	医学部・医学系学府		
申請者(部局長)	片野光男		
1. 取組の名称	国	際	化
	と	学	際
	化	に	対
	応	す	る
	教	育	・
	教	材	の
	開	発	
	(副題) 保健学教育の国際連携推進と外国語教材の開発		
2. 取組実施担当者			
氏名	担当学府・学部・職名	現在の専門	役割分担
平田 秀紀(62)	医学研究院・保健学部門・教授	医用量子線科学	代表者
藤本 秀士(53)	医学研究院・保健学部門・教授	病原微生物学	教育方法および改善担当
佐々木 雅之(55)	医学研究院・保健学部門・教授	医用量子線科学	教育方法および改善担当
川本 利恵子(59)	医学研究院・保健学部門・教授	臨床看護学	教育方法および改善担当
杉島 節夫(60)	医学研究院・保健学部門・教授	検査技術学	教員の海外研修計画・評価担当
鳩野 洋子(53)	医学研究院・保健学部門・教授	地域看護学	教員の海外研修計画・評価担当
3. 実施・評価・改善のための組織体制の活動状況			
(取組計画書の「実施・評価・改善のための組織体制」を転記のこと。)		活動状況(会議等の開催日、検討内容等)	
1. 自己点検評価委員会による中期目標の確認と業績評価		1. 自己点検評価委員会：取組内容の中期目標との整合性の確認。 個人業績評価による成果の確認。	
2. 実施運営のための委員会		2. 1) 研究推進委員会	
1) 研究推進委員会		第1回 平成24年7月24日：基本方針の確認とEEP取り組み実施委員会設置の承認	
総務委員会の下、各分野の教員から構成される国際化や研究推進のための委員会		2) EEP取り組み実施委員会	
2) EEP取り組み実施委員会		・第1回 平成24年7月24日：計画書の確認、経費予算の計上、事業内容ごとの担当者の役割決定、実務運営の方法の検討	
研究推進委員会のもと、各分野からの教員から構成されるEEPの取り組み実施、運営を担当する委員会		・メール会議(4回) 研修申請の審査	
		・第2回 平成25年4月5日：成果物の確認、予算執行状況の確認と承認	
		3. 成果報告会	
		平成25年4月5日：2年間の取り組み成果報告	

4. 取組に係る具体的な成果
(教員の意識向上等取組の波及効果等)

大学における保健学教育・研究とは国内外の医療現場・地域での経験と事例に基づいたエビデンスを蓄積し、これらを有機的に結び付けて定理・理論を構築することにある。そして証明された仮説を定説として現場へ橋渡し研究・教育を行うことである。九州大学大学院医学研究院保健学部門は平成15年の開校以来、学部教育に加え大学院教育にも重点を置いてきた。実学・座学の情報双方向の立場からは、とりわけ現場を経験した医療人のリフレッシャーコースとしての研究・教育の意義は大きく、外国人研究者との交流や国際的情報交換や共通教材の充実が望まれる。

そこで、本プロジェクトは教員の海外FD研修および英語教材の開発や作成における調査・研究や保健学教育の改善を図るための国際研修に取り組んだ。これらの国際研修、英語教材開発による成果として、英語授業のためのハンドブック（第2版）、英語による教材、研修などをまとめた報告書を作成することができた。また、保健学の諸分野における国際・地域比較のための情報交換や国際的、中核的人材育成のために、海外との大学と国際交流を積極的に進めてきたが、交流先の海外の大学と部局間協定を締結した。さらに、本プロジェクトとして訪問した大学から、本学で毎年開催している国際フォーラムに講師として来学され、本学学生も訪問するなど交流の幅が拡大した。

その結果、保健・医療・福祉の各学問領域の統合や学際的发展を図る必要性や、アジアを含めた国際的な保健学研究拠点形成を目指した保健・医療・福祉に関わる保健学領域の学術研究を推進する事の重要性を認識するなどの教員の意識が向上した。

本プロジェクトの終了後は、文科省の教育改革支援プログラムなどへの申請を行うなど活動が積極的になり、九州大学大学院医学研究院保健学部門のさらなる教育・研究の進化・バージョンアップを図るなどに波及している。